

使用済製品等のリユース促進事業研究会（第10回）
議事概要

1. 開催概要

(1) 日時・場所

日時：平成25年2月20日（水） 15:00～17:00
場所：TKP 東京駅ビジネスセンター1号館 ホール5A

(2) 議事

- 1) 市町村における使用済製品リユースモデル事業（中間報告）
- 2) 昨年度のモデル事業のフォローアップ調査の報告
- 3) リユース品の流通状況・市場規模の調査結果について（途中報告）
- 4) 今後のスケジュールについて

(3) 出席委員

三橋規宏（座長）、加藤正、佐々木創、佐々木五郎、杉研也、手塚一郎、長沢伸也、
波多部彰、服部美佐子、藤田惇（以上、敬称略）

(4) 欠席委員

小野田弘士、田崎智宏、長谷川拓、（以上、敬称略）

(5) 配布資料

- 資料1 研究会名簿
 - 資料2 市町村における使用済製品リユースモデル事業について（中間報告）
 - 資料3 昨年度のモデル事業のフォローアップ調査について
 - 資料4 リユース品の流通状況・市場規模の調査結果について（途中報告）
 - 資料5 今後のスケジュール
- 参考資料 第9回 使用済製品等のリユース促進事業研究会 議事概要

(6) その他

会議は公開で行われた。

2. 議事概要

(1) 市町村における使用済製品リユースモデル事業(中間報告)

【事務局(三菱UFJリサーチ&コンサルティング 加山)】

(資料2に基づき、説明が行われた。)

【杉委員】

- ・ 大府市、町田市の事業では JRAA の会員企業が協力している。
- ・ 大府市とネットオフが実施している事業について、ネットオフが回収した PC はパシフィックネットが買い取ることになっている。買取基準は、パシフィックネットが定めており、一般的な PC リユース品と同様の仕様としている。仕様を満たさないものはリサイクルに回すことになる。リユース買取件数が少ないところをみると、個人宅から回収される PC は陳腐化したものが多いのかもしれないという印象を受ける。退蔵された古いものが出ているのではないだろうか。
- ・ リユースできるものが少なく、リサイクルへ回すものが多い場合、事業として採算が取れなくなるであろう。回収のための宅配費用が課題となってしまう。
- ・ 町田市の事業について、パシフィックネットとしてゲーム機の買取を行っているが、現在一般的に販売されているゲーム機・ソフトの持ち込みは少なく、ソフトの入手が困難なファミコンなど、旧式ゲーム機が持ち込まれている。
- ・ ゴルフクラブについても数多く持ち込まれているが、型式が古いものや汚れが目立つものが多く、一般的にリユースショップに持ち込まれるような商品は少なかった。リユースはできないため、パシフィックネットでマテリアルリサイクルのために買取している。
- ・ 大府市、町田市のモデル事業からは、リユースすることが難しい商品が多いという印象を受けている。一方、廃棄物の削減には繋がっていると感じている。リユース促進事業ではあるが、リサイクルと合わせてと実施することで効果があり、循環型社会形成に向けての有効な取組になると言えるのではないか。
- ・ 町田市の広報紙に掲載されたことで、店舗への問い合わせが増えている。市の広報紙は一般家庭への情報提供の際に効果的な手段であり、引き続き市町村から告知をしてもらえるとリユースショップとしてはありがたい。
- ・ モデル事業に参加したリユース事業者の意見としては、商品の単価が高いものでなければ運送費や人件費を負担することが難しい状況である。自治体との連携事業で回収されたものは単価が低いものが多かったため、採算をとるのが難しいことが問題として挙げられた。古くなって未使用なものを回収するという位置づけよりも、使用中のものを回収し、買い替えを促進するような施策がリユースを促すにはよいと考える。

【手塚委員】

- ・ 大府市での玄関前無人集荷を利用する比率が 68%であったとのことであるが、市民が利用しやすい一方で、玄関前無人集荷はリサイクルコースしか利用できないため、利用のしやすさがリサイクルコースの増加につながり、リユースの促進を阻害していることが考えられないか。リユース点数が3点というのは極めて低いため、今後の改善についてお聞きしたい。
- ・ 家電4品目に関する問い合わせの内容は、リサイクル費用の負担なしでの引き取りを希望する趣旨のものか。
- ・ 泉大津市の事業において、対象除外品として取り扱いを断るなどの需要と供給のミスマッチがあったかどうか、また、市民同士の受け渡しに関する苦情の有無についてお聞きしたい。また、ヤフーバザールの登録支援マニュアルの現物を見せていただきたい。

【事務局（三菱UFJリサーチ&コンサルティング 加山）】

- ・ 大府市に関するご質問については、現時点では回答ができないので、3月の最終研究会でご回答できるよう大府市にお伝えする。
- ・ 泉大津市で定められている対象除外品は、モデル事業前からの取組である不用品あっせん掲示板で定められていた内容を引き継いでいる。掲載された不用品のすべてが交渉成立しているわけではないので、成立しなかったものの分析が必要と考える。
- ・ 市民同士の交渉におけるトラブルについて、現在のところ報告は受けていない。アンケートで利用者の満足度を把握する予定である。
- ・ ヤフーバザールのマニュアルについても、最終の研究会で泉大津市からご提示いただくよう依頼する。

【佐々木創委員】

- ・ 大府市のリサイクルコースにおける売却金額を把握できるとよい。リユース品が3点しかなかった理由として、回収されたものの大半が退蔵品であったことが推測される。退蔵品の割合は把握できるか。今後、事業継続を判断する際の参考とできればよい。
- ・ 泉大津市の不用品あっせん掲示板は、自宅からネット経由での申請が可能なのか。他の2市に比べて市民にとってのメリットが分かりにくい。利便性は向上しているのか。
- ・ 町田市の事業では、持ち込まれたものがリユースできない場合でも、市民は粗大ごみ費用を負担しなくてよいという理解でよいか。

【事務局（三菱UFJリサーチ&コンサルティング 小川）】

- ・ 大府市のリサイクルコースにおける売却金額については、効果測定の際に収益性を報告していただくので、把握できると考える。大府市にお伝えする。

- ・ なお、実際に回収されているものは、PC と PC 周辺機器で全体の 4 割を占めており、回収された PC には、PC リサイクルマークがついていない古いものが多いと聞いている。退蔵品の割合が多いことが推察される。詳細は追って確認する。

【事務局（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 加山）】

- ・ 泉大津市の不用品あっせん掲示板は、ネット上での手続きが可能である。従来に比べて、ネットでも手続きができることが利便性の向上に繋がっている。
- ・ 町田市について、リユースできない製品であっても、ちらしで明記している品目・条件のものであればすべて引き取る。手数料の徴収なしに市で粗大ごみとして処理しており、市民が持ち込んだものはすべて引き取ってもらえる形になっている。
- ・ ただし、持ち込み品目・条件を明記しており、対象外のものは持ち帰りいただくか、あるいは隣接する清掃工場で粗大ごみとして処理手続きをしていただく。町田市からは、粗大ごみの処理量が増えてしまうことがないように、対象品目・条件の設定が課題であると聞いている。

【佐々木五郎委員】

- ・ 各モデル事業には、どの程度の経費がかかっているか。

【事務局（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 加山）】

- ・ 第 8 回、第 9 回の研究会で報告した事業計画書の中で予算を出している。変更のあった地域もあるが、上限 200 万円としており、大府市が 130 万円、泉大津市が 200 万円、町田市が 80 万円程度を見込んでいる。

【波多部委員】

- ・ 大府市の宅配回収の送料は、モデル事業として支援しているのか。また、電話での受付時にリユースの可否を確認するとのことであるが、その基準についてお聞きしたい。
- ・ 各モデル事業について、ビジネスモデルとしての検証及び評価は、3月の研究会で報告いただけるということでしょうか。

【事務局（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 加山）】

- ・ 大府市について、事業の採算性及び電話で確認している内容については、大府市に情報提供を依頼する。
- ・ なお、宅配便の送料はネットオフが負担しており、環境省からは広報・PR 等に関する費用の支援している。

【藤田委員】

- ・ 上場企業・大企業と中小規模のリユース事業者の間では、買い取り基準に差があると感じている。例えば、5年を経過した家電は買取しないという目安・基準があるが、上場企業が取り扱わないものでも、中小規模のリユース事業者では状態をみて買い取りすることもある。
- ・ 今回、モデル事業に協力しているリユース事業者には上場企業・大企業が多く、中小規模のリユース事業者が参加していないことに留意が必要である。

【事務局（三菱UFJリサーチ&コンサルティング 加山）】

- ・ 町田市の事業で連携している4社は、JRAAに相談して参加いただいたとのことである。
- ・ リユース事業者によって買い取り基準に差がある。規模の大小に関わらず、リユース事業者によっても得意な品目があるとも聞いている。実際、町田市の事業においても、他のリユース事業者が買い取らないもののなかに、買い取れるものがあるかも知れないという話を聞いた。

【藤田委員】

- ・ 多様な規模のリユース事業者が参加すれば、よりリユース促進につながるのではないかと考える。

【加藤委員】

- ・ 町田市について、エコライフ推進公社と町田市の関わりについて教えて欲しい。事業主体は公社とされているが、ちらしには町田市の名前しか記載されていない。

【三橋座長】

- ・ ここでいただいた質問・指摘については、各市に確認してもらい、3月の研究会での報告内容に反映していただきたい。

（2）昨年度のモデル事業のフォローアップ調査の報告

【事務局（三菱UFJリサーチ&コンサルティング 小川）】

（資料3に基づき、説明が行われた。）

【手塚委員】

- ・ 秦野市について、買取できなかった製品の情報を仕分けする作業員へフィードバックするとのことであるが、どのような方法で行っているのか。また、リユース同意書を改善したとのことであるが、具体的にはどのようなものか。現物を見せて欲しい。
- ・ 市民の反応について、自身の不用品を誰かに活用して欲しいという提供意向だけでなく、使用可能な不用品を活用したいというニーズがどの程度あるかも把握しなければ、

リユースの促進方策を検討できないのではないかと。活用を希望する市民がどの程度いるかを把握し、費用対効果とあわせてリユースを進めるための仕組みを議論すべきである。

【事務局（三菱UFJリサーチ&コンサルティング 加山）】

- ・ 作業員へのフィードバックは、買い取れなかった現物を示して行っている。また、資料に示す図表6の一覧票を、事務所に掲示することで情報共有を図っているとのことである。リユース同意書については、後日資料にてご報告させていただく。
- ・ 市民に対するアンケートは、市民向けの世論調査の一部で行ったものであるため、詳細には把握できていない。ご指摘いただいたニーズ側の意向も把握することは重要な点であると考えます。

【杉委員】

- ・ モデル事業のサンプル・実施数が少ないという印象がある。全国にさらに広げていただきたい。また、小型家電リサイクル法の施行が4月から始まるが、リサイクルを優先せず、リユースできないものについてリサイクル法で対応するという流れを作っていただきたい。
- ・ 中小規模の事業者では買取基準が緩いというご意見に対しては疑問がある。当協会の加盟業者は店舗数にして3千店舗あることで利便性が高いこと、また業の規模の維持を図っていることなどをご理解いただきたい。モデル事業の対象店舗は、市場競争ではあるが、さらに広げると良いと考える。

【服部委員】

- ・ 秦野市について、販売できなくても、リユースは可能だと思うが、リユース専用のストックヤードに保管された製品を、市民が譲り受ける・購入するということはあるのか。

【事務局（三菱UFJリサーチ&コンサルティング 加山）】

- ・ 市民への引き渡しは実施していない。リユース事業者に販売している。

【長沢委員】

- ・ 資料に記載されている用語について、不明瞭な点が多い。「ストック」「買取り」などの主語が不明である。精査していただきたい。例えば、誰がストックし、誰が買取りし、誰の誰に対する販売額なのか。

【事務局（三菱UFJリサーチ&コンサルティング 加山）】

- ・ 資料については修正をさせて頂きたい。ストックを行っているのは秦野市、買取りをしているのはリユース事業者である。販売額は、秦野市がリユース事業者に販売した金額である。

【長沢委員】

- ・ 自治体によって内容の異なる用語があるため、統一した表現を使用するように注意していただきたい。
- ・ 市民が比較的不便な立地と思われる回収場所に持ち込んだにも関わらず、引き取ってもらえないという事態はできるだけ避けていただきたい。
- ・ 引取りができず持ち帰ることとなった市民は、アンケートにも回答しないと考えられる。不満を拾うことは難しい。

【事務局（三菱UFJリサーチ&コンサルティング 加山）】

- ・ 町田市では基本的には持ち込まれたものをすべて引き取っており、大府市も宅配で送った不用品が返送されることはない。昨年度のご指摘を踏まえ、今年度は事業計画を作成する際にも配慮した。

【長沢委員】

- ・ 制度を利用して不用品の引取りが成立した人はアンケートにも積極的に回答するが、一方で不満を持った人は回答に積極的ではないと考えられる。アンケート結果は良い意見に偏りがちであることに留意すべきである。
- ・ モデル事業の採算性について検討する際の留意点として、独立で採算が成立するかどうかの視点だけではなく、例えば粗大ごみとして処理する場合と比較してコストが下がっているかどうかなど、市民の負担や従来の行政サービスにかかるコストと比較して採算性を検討すべきである。

【藤田委員】

- ・ 秦野市が紹介しているオフハウス秦野店と当協会に加盟するリユース業者とでは、取り扱う商品の構成が大きく異なると考えられるため、市から紹介していただく企業は、複数店舗としたほうが標準的な結果が得られるのではないかと。
- ・ 消費者は不用品のうち状態・品質の良いものをリユース事業者に販売し、残りを行政のサービスに拠出していると考えられる。状態や品質の良くないものの中からリユースをしようとするのであれば、上場企業による対応は難しいのではないかと。

(3) リユース品の流通状況・市場規模の調査結果について（途中報告）

【事務局（三菱UFJリサーチ&コンサルティング 加山）】

(資料4に基づき、説明が行われた。)

【杉委員】

- ・ 本日、リユース業協会統計の中間発表を公表した。半期での推移では、売上高が1%増、店舗数が6%増、従業員者数が5.5%増であった。デフレの影響もあり、事業規模の拡大ほどは売上高があがっていないという結果である。
- ・ 資料について、20ページに記載されている購入単価は、単品ごとの単価と、客単価のどちらか。
- ・ 25ページに記載されている未使用品・新古品の割合は、金額ベースと台数ベースのどちらか。
- ・ 28ページに記載されている購入方法のうち、インターネットオークションでの購入は事業者が出品している場合が多い。今後の調査では、CtoCか、BtoCかを把握する設問を含めてもよいかもしれない。

【事務局(三菱UFJリサーチ&コンサルティング 加山)】

- ・ 20ページに記載されている購入単価は、客単価である。
- ・ 25ページに記載されている未使用品・新古品の割合は、「どれくらいの割合か?」という設問への回答であるため、台数ベースであると思われる。ただし正確ではない。
- ・ インターネットオークションの出品者の把握については、今後の調査の参考とさせていただく。

【佐々木五郎委員】

- ・ リユース市場の規模は、実感として増えていると感じており、民間ベースでの受け皿が出来てきている。
- ・ 一方で、自治体は廃棄物として集めた粗大ごみのうち、市民が使えると判断したものについてのリユースに取り組んでおり、自治体の立場では商品価値のあるもの以外は取り扱わないという方針をとることは難しい。さらに、家具等は修理をして販売している自治体も多いが、修理をした場合でも高額での販売はできないという状況があり、民間ベースでのリユースとの間には取り扱うリユース品や販売方法・価格等について大きな乖離がある。粗大ごみのうち、使用できるものをリユース品として修理・販売する事業から撤退する自治体もあり、自治体が行うべきリユースとは何かという位置づけが難しくなっている。
- ・ 自治体が収集する衣類と書籍は、多くが可燃ごみとして扱われており、リユースを想定していない。一方で、リユース市場では衣類、書籍に相当のウェイトがあるのであれば、リユース事業者との連携・利用を周知することも良いと考えられる。フリーマーケットと比べて、高齢者でも利用しやすいと考えられる。

- ・ 自治体のリユース事業における取り扱い品目と、市場分析の結果がリンクしておらず、ごみ処理とリユース業をより連携させる必要があると感じている。
- ・ 自治体のリユース事業は廃棄物政策として実施されているため、リユースを前面にだして施策を展開することは難しい。信頼できるリユース事業者とパートナーを組んで進めるのが良いのではないか。

【三橋座長】

- ・ 24 ページに記載されているリユース市場の規模の推計結果には、自治体による販売は含まれていないのか。

【事務局（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 加山）】

- ・ 自治体が販売しているリユース品に関しては、「その他」の分類に反映されている。

【三橋座長】

- ・ 自治体のモデル事業で実施されているリユースは、自治体経由であっても、市場規模の推計ではリユース事業者での取り扱いに含まれるのか。

【事務局（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 加山）】

- ・ 自治体のモデル事業でも、市民はリユースショップから購入するので、リユース事業者の取り扱いに含まれる。一般市民がどこから購入したかを基準にしている。

【三橋座長】

- ・ 自治体が廃棄せずにリユースしたものの規模も把握できるとよい。

【事務局（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 加山）】

- ・ 重要なデータであると思われる。現状では把握できていないので、自治体に向けてアンケート調査などを実施する必要があると思われる。

【佐々木創委員】

- ・ 中古品の購入経験について、前回調査に比べて僅かに低下している。出現率が下がっている。一方で市場規模は伸びていることをどのように解釈するか、さらに分析していただきたい。出現率が下がっているために単価があがっていることが原因のひとつとして考えられる。
- ・ 前回の調査内容と異なり、未使用品・新古品を含めた、品目としてブランド品を追加した点がどの程度結果に影響を与えているのかが不明である。図表 25 で示している単価の変化を見れば、市場の変化を捉えることができ、参考となるのではないか。

- ・ また、新品の価格が下がっているため、中古品の価格も下がっていると考えられる。未使用品・新古品を除いた中古品の単価を計算すれば、中古品市場がより明確となり、商品価値はないが使用価値があるものの扱いについて、モデル事業の結果とあわせて必要な施策が明らかになってくるのではないかと。

【事務局（三菱UFJリサーチ&コンサルティング 加山）】

- ・ 前回調査との差異は品目の細分化であり、前は補足ができなかった品目を新たに把握したことが影響しているのではないかと考える。いろいろなデータは得られているので、ご助言をいただきながら分析をしてみたい。
- ・ 未使用品・新古品を除いた単価については、そもそも幅を含んだ選択肢で回答してもらっており、厳密に計算することは難しいかもしれない。

【佐々木五郎委員】

- ・ 衣類など、回収された不用品をリユース目的で海外へ輸出する量について、何らかのデータは得られるか。

【事務局（三菱UFJリサーチ&コンサルティング 加山）】

- ・ 今回の調査は、国内の消費者が国内で購入した時点を対象としている。海外リユース・輸出量については把握できていない。例えば、貿易統計の中古品に関するコードがある製品は把握できる場所もあると思われるが、全体像を把握できる厳密なデータは見当たらない。

【三橋座長】

- ・ 未使用品・新古品とは、事実上の新品という理解でよいのか。未使用品・新古品の定義はしっかりしておく必要がある。
- ・ なお、エアコンの未使用品・新古品の割合が66.6%と他と比較すると高い。何か理由は考えられるか。

【事務局（三菱UFJリサーチ&コンサルティング 加山）】

- ・ 例えば、包装の箱が傷ついた製品、型落ちした在庫品、展示品などが具体的な事例と聞いている。
- ・ エアコンについては、そもそも出現率が低く、回答者数が低いことが数値の不確かさに繋がっている可能性もある。他の家電製品とも結果・傾向が異なるので考察してみたい。

【藤田委員】

- ・ エアコンの未使用品・新古品の割合が高い理由として、夏場の気温に起因することが考えられる。エアコンの販売量は夏の気温に左右されるが、冷夏で販売が伸び悩んだ年には売れ残った商品が、未使用品としてリユース市場に大量に出回る。
- ・ ニトリや IKEA などの家具メーカーが、新品の家具・家電類を安価で販売しており、リユース品の価値・強みが薄れてきていると感じている。新品で安価であった商品を2, 3年後に買取し、再販する場合には高値をつけることが出来ず売れない。
- ・ また、リユース品を購入した最終利用者がリサイクル料金を支払うのは不公平であると考えている。環境省には、家電リサイクル法の料金の徴収方法について、前払い制を導入していただきたい。

【三橋座長】

- ・ 3月に最終結果をまとめるので、追加での指摘・改善点があれば事務局まで連絡いただきたい。

【事務局（環境省 眼目室長補佐）】

- ・ 商品価値と使用価値の差異について、今後の施策を考える際にも留意したい。
- ・ 実際に町田市の事業を視察してきたが、衣類や本はリユースされやすいが、家電製品は難しいという印象であった。ベビー用品も持ち込まれていたが、日に焼けているものや、安全マークが古いために商品にはできないというものが多く見受けられ、実際のものを見なければ判断できないことを実感した。

【事務局（環境省 永島室長）】

- ・ 2Rを社会のなかに制度として位置づけようとしているが、モデル事業の状況や委員の方々のご意見を伺って、新古品や未使用品の流通によって中古品と新品の境目が曖昧になってきており、リユースを普及するターゲットの設定が難しいと感じている。
- ・ また、ビジネスとして行う部分と、廃棄物処理として行う部分の位置づけも難しい。消費者と事業者のニーズを今後どう繋いでいくかについて、課題を感じたところである。

(4) 今後のスケジュールについて

【事務局（三菱UFJリサーチ&コンサルティング 加山）】

(資料5に基づいて、説明が行われた。)

(5) 閉会

(以上)